

経営課題3 防災・防犯・安全対策 自己評価のまとめ (2)

◇空家等対策の推進

特定空家の是正に向けて、所有者調査及び、判明した所有者等に対する助言・指導を進め、目標を上回る件数の是正を行うことができたが、周辺の特定空家等に不安などを感じている市民の割合は上昇し、未達成となった。今後はより実体に即した指標へ見直しを行うとともに、空家対策の取組をさらに前進させる必要がある。

経営課題4 あいりん地域対策

具体的取組4-1-1 不法投棄対策

元予算額

147,066千円

2予算額

110,997千円

目標	目標値	結果
・街路・公園への不法投棄量の削減	街路: 前年度以下 公園: 前年度以下	街路: 前年度比1.9%減 公園: 前年度比18.7%減

達成

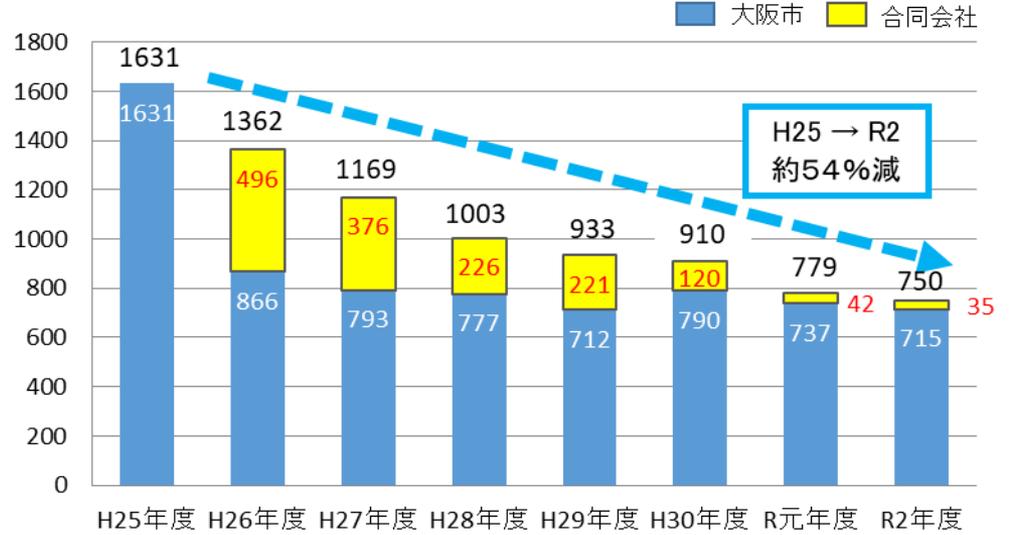
取組実績

- ・不法投棄防止を目的とした巡回(毎日14時～翌6時)
- ・公園への不法投棄を防止するため、啓発拠点を設置し、家庭ごみの排出ルールなどの啓発(364日)
- ・生活保護世帯へのごみの出し方チラシの送付 約23,000枚

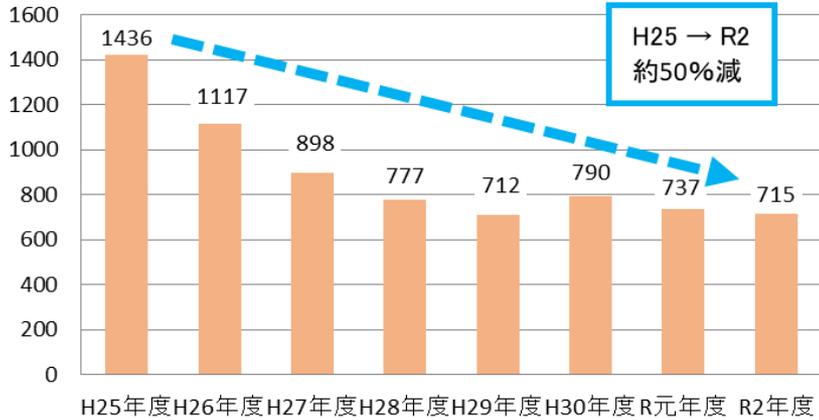
【一般廃棄物】 不法投棄 ごみ収集量

令和2年度
750トン
H25年度比:54%減
R元年度比:3%減

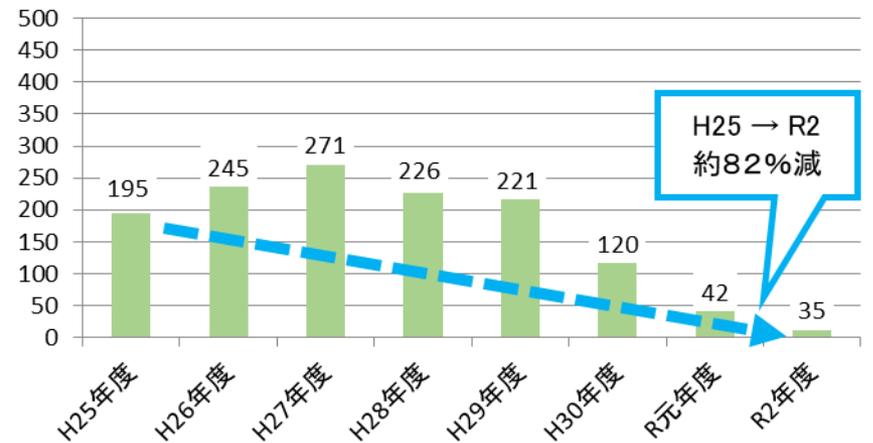
年度別 一般廃棄物収集量推移(単位:トン)



街路



公園



経営課題4 あいりん地域対策

具体的取組4-1-2 迷惑駐輪対策

	元予算額	4-1-1に含む	2予算額	4-1-1に含む
目標	目標値		結果	
あいりん地域内の迷惑駐輪台数	2,000台以下		2,357台	

未達成

取組実績

- ・地域内自転車置場(約1,120台)の清掃及び整理整頓を実施(随時)
- ・長期間放置自転車への啓発エフ取り付け(42,000枚)
- ・長期放置自転車の撤去(1,295台)

課題と改善策

- ・緊急事態宣言による外出自粛によって、道路の車庫的利用が増加したことが一因と考えられるが、台数増加の根本的原因は明らかではない。
※緊急事態宣言下で行った2月調査を除くと、約2千台の水準を維持している。(6月、12月調査平均2,073台)
- ・台数増加の状況を注視し、原因分析も行いながら、引き続き、自転車置場の利用勧奨、啓発・指導等を行っていく。

自転車置場の整備状況

南海新今宮駅南高架下自転車置場
完成年度:平成27年度
収容台数:約300台



南海新今宮駅南高架下自転車置場

住吉神社前通線自転車置場
完成年度:平成29年度～30年度
収容台数:約270台



住吉神社前通線自転車置場

尼崎平野線南側自転車置場
完成年度:平成28年度
収容台数:約30台

阪堺線西側自転車置場
完成年度:平成28年度
収容台数:約300台

三角公園南側自転車置場
完成年度:平成26年度
収容台数:約60台



経営課題4 あいりん地域対策

具体的取組4-2-1 結核患者の早期発見・早期治療

元予算額	20,900千円	2予算額	20,454千円
------	----------	------	----------

目標	目標値	結果
あいりん地域の結核患者のうち、西成区実施の健診によって発見された方の割合	25%以上	28.3%

達成

取組実績

- ・西成区保健福祉センター分館で、毎日健診を実施
- ・あいりん地域内健診を44回(内、夜間2回)実施
- ・あいりん地域内のアパートに受診勧奨を延べ61ヶ所実施(内21ヶ所個別訪問)

■ あいりん地域の結核患者のうち、西成区実施の健診によって発見された方の割合

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受診者数(%)	29.2	20.4	24.7	30.4	23.5	31.1

経営課題4 あいりん地域対策

具体的取組4-2-2 結核患者の支援の充実

元予算額	34,168千円	2予算額	34,491千円
------	----------	------	----------

目標	目標値	結果
新登録肺結核患者の治療失敗・脱落中断割合	3%以下	2.2%

達成

取組実績

- ・あいりんDOTS開始数
拠点型37名、訪問型14名
- ・「あいりん結核患者療養支援事業」居所確保
地域内個室21名、地域内大部屋14名利用



あいりんDOTS 拠点型の様子

経営課題4 あいりん地域対策

自己評価のまとめ

【あいりん地域環境対策】

- 不法投棄ごみ収集量については、順調に減少しており、投棄ごみが散逸していない状態を維持している。迷惑駐輪台数については、新型コロナの影響もあり直近の令和3年2月調査では、前年同月より僅かに増加する結果となったが、これまでの取組により地域環境は着実に改善してきており、引き続き改善した環境の定着に向けた取組を行っていく。

【結核対策】

- 2019年の西成区の罹患率が99.3となり目標としていた100未満へと減少していることから、これまでの特区による様々な結核対策の効果が表れていると考える。しかしながら、西成区の罹患率は依然として大阪市の中で突出して高いため、結核患者の早期発見につながる結核健診受診の重要性を引き続き広く普及していく必要がある。